

1 事業の成果

設立10周年の節目における「可視化」の完了と次なる成長への基盤構築

2025年度は、当法人にとって設立10周年という大きな節目を迎えた象徴的な一年であった。本年度は、昨年度より最重要テーマとして掲げてきた「事業および組織の可視化フェーズ」を順調に通過・達成した年と言える。

最大のトピックスとしては、年間2回に及ぶ現地（タンザニア）への渡航が実現したこと、そして横浜で開催された第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）の機会を捉え、現地メンバーの日本招聘を成功させたことが挙げられる。これにより、これまでにない規模での相互人材交流が実現し、国内外のメンバーが目指すべきゴールのすり合わせを精緻に行うことができた。

事業面においては、新規の村の開拓に成功し、着実に受益者を拡大させている。同時に、現地渡航を通じて浮き彫りになったオペレーションやガバナンスの課題に対し、昨年度獲得した 世界の人びとのためのJICA基金 を活用して専門家からのアドバイスを受けることで、具体的かつ現実的な中長期的アクションプランを設計することができた。

さらに、プロボノ主体で構成される当法人の特長を活かし、AIをはじめとするデジタル技術を導入することで、限られたリソースの中で社会インパクトを最大化するための業務効率化・情報整理の土台を急速に強固なものとした。以下に、具体的な事業成果を4つの柱に分けて報告する。

1. 現地事業の拡充と受益者層の拡大（新規村の開拓）**(1) 第4の村の開拓と「置き薬」21世帯への導入**

本年度8月、当法人が進める医療アクセス改善事業において、かねてより調査を進めていたエリアにて、新たに「4つ目の村」の開拓に成功した。これにより、同村内の21世帯に対して新たに「置き薬」を届けることができた。これは、従来の支援地域を越えたネットワークの広がりを示す重要なマイルストーンである。

(2) 定着化と受益者からの高い評価

新規開拓した村においては、導入後も住民（顧客）が継続して置き薬を活用しており、地域医療の一次アクセスとして機能し始めている。現地ヒアリングでは、「必要な時にすぐ薬が手に入り、非常に役に立っている」という極めて肯定的な声が多く聞かれた。薬がただ届くだけでなく、住民の生活に深く根ざし、実効性のある支援として定着していることが実証された。

2. 2回の現地渡航とJICA連携による事業基盤の強化**(1) 現場視察によるリアルな課題の抽出**

本年度は計2回の現地渡航を実施した。これにより、リモート環境では見えにくかった現場のリアルな課題を肌で感じ、課題の大きさを改めて実感することができた。具体的には、以下の多岐にわたる重要な課題を発見・特定するに至った。

オペレーションの標準化： 属人的になっていた現場業務のマニュアル化および標準化の必要性

置き薬マネジャーの実行力向上： 事業の持続可能性を担保するための、置き薬マネジャーの薬剤補充・代金回収のフロー頑健化

タンザニア現地の法人ガバナンス： 現地法人における意思決定プロセスおよびコンプライアンス体制の再構築

(2) JICA基金の活用と現実的なソリューションの設計

これらの課題に対し、本年度はJICA基金（連携事業等）を活用する機会に恵まれた。国際協力の現場で豊富な経験を持つ専門家やアドバイザーから知見を得ることで、これまでの当法人単独の視点にはなかった、具体的かつ現実的なソリューションを導き出すことに成功した。このアドバイスを基に、課題改善に向けた「中長期

的なアクションプラン」を精緻に設計することができ、次年度以降の強固な事業運営への道筋がついた。

3. TICAD9（横浜）での発信と国内外メンバーの交流

(1) 国際会議での発表と社会的期待の獲得

10周年の節目となった本年度、横浜で開催されたTICAD（アフリカ開発会議）において、当法人の活動を発表する貴重な機会を得た。この発表を通じ、当法人が実行している「置き薬事業」のユニークさや、アフリカの無医村地域における医療アクセス改善へのアプローチが、多方面から高い関心と期待を集める結果となった。外部のステークホルダーから得られたこの高い評価は、当法人の事業価値の正当性を証明するものである。また、NPO中心のブースではなく、企業中心のブースにおいて発表の機会を得たことは、我々の事業に対する「慈善事業としての期待」を凌ぐ「持続可能な仕組みとしての期待」の表れであると考えている。

(2) 現地メンバーの日本招聘とゴールのすり合わせ

従来の活動では日本国内の人材交流が主であったが、今年度は2回の渡航に加え、TICAD9への参加に伴う「タンザニア現地法人代表の日本招聘」を実現した。これにより、例年では数名の渡航メンバーだけが実現できていた交流を、10名近くのメンバーで実現した。

このリアルなコミュニケーションを通じて、双方が目指したいビジョンや「ゴール」のすり合わせを行うことができ、組織としての一体感が飛躍的に向上した。

(3) 日本国内組織のあり方の見直しとコミットメントの向上

現地メンバーとの深い交流と対話は、日本国内の組織にも好影響を与えた。改めて「組織のあり方」を見直す契機となり、プロボノメンバー一人ひとりが、より高いコミットメントを持って活動を進めていくために必要な要素（役割分担、評価、コミュニケーションフローなど）について、深く議論を交わし、意識の共有を図ることができた。Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGsの取り組みの中で、組織基盤に対する課題の特定と、具体的なか長期的対策を決定・実行開始することで、メンバーのコミットメントを支える強固な組織へと近づいてきている。

4. テクノロジー（AI・DX）の活用によるプロボノ組織の基盤刷新

(1) 限られたリソースでの「社会インパクト最大化」への挑戦

当法人はプロボノのみで構成されている組織であるため、限られた時間とリソースの中で社会へのインパクトを最大化するためには、業務の徹底的な効率化が不可欠である。本年度は、これを達成するための「AIおよびデジタルツールのフル活用」に向けた土台を急速に構築した。

(2) 通信インフラの変化に対応した次世代の状況把握・分析

現地渡航における最大の発見として、タンザニアの農村部における通信電波の普及が挙げられる。この時代背景の変化を捉え、当法人は以下のデジタルアプローチを推進した。

既存アプリの教育・定着：現地メンバーに対し、業務で使用している既存アプリケーション（WhatsApp）を用いた、各家庭・各村での置き薬の在庫状況や使用状況をリアルタイムで把握できる仕組みを導入した。

「AI時代」および「農村部の電波普及時代」に最適化されたこれらの取り組みにより、遠隔からでも現地の状況を的確に把握・分析できるマネジメントの土台が完成した。これは、今後の事業拡大における強力な武器となる。

【今後の展望】

2025年度に得られた成果、すなわち「新規村での成功体験」「JICA連携による中長期アクションの設計」「TICAD9を契機とした組織の結束」、そして「AI活用によるDX基盤・組織基盤の構築」を携え、次年度はさらなる事業の持続可能性の向上と、社会インパクトの拡大へと舵を切る。10周年で培った信頼と新たな基盤を基に、医療アクセスに課題を抱えるより多くの人々へ質の高い支援を届けていく所存である。

2 事業の実施に関する事項 特定非営利活動に係る事業

定款に記載された事業名	事業内容	日時	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
アフリカの医療環境改善事業、およびアフリカにおける医療教育・知識啓発事業	タンザニアにおける医療過疎地域において配置薬事業を展開する 上記薬剤の配置拠点において、疾病の予防・治療方法や薬剤の適正使用を目的とした医療教育を行う	通年	タンザニア (Pwani州 Kisarawe district)	200世帯	3,328 (千円)

- 上記を支える活動として、国内での助成金、寄付者、賛同者の獲得
 - 2025年度は複数企業からの助成や来期に向けて「ゆうちょ財団-NGO海外援助活動助成」の助成金を獲得いたしました。また、寄付者の利便性向上のため、寄付プラットフォームを「コングラント」へ移行し、更なる寄付者獲得に向けた基盤構築を行いました。
 - 2025年度の広報活動は、理事の講演が14回、取材や記事で取り上げていただいたメディア8社、イベントは自主企画1回と国際協力イベントへの出展2回と、一年を通してAfriMedicoの活動を知ってもらう露出を多く行いました。また、SNSでは、日々の活動報告やメンバーの個性が垣間見える話題を発信し、AfriMedicoをより身近に感じていただけるよう心がけました。結果、活動にご賛同いただいた年間100名を超える方からご寄付をいただきました。
 - ・プロボノとして新たに10名の方がAfriMedicoに加入し、第一線で活躍いたしました。
- その他の活動

組織運営やリーダーシップ等の講演による収入を得ております。

法人名： 特定非営利活動法人AfriMedico

活動計算書

2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
受取会費	580,000	580,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	2,781,703	2,781,703	
3. 受取助成金等			
受取助成金	1,521,573	1,521,573	
4. 事業収益			
TSUNAGU事業収益	272,420	272,420	
5. その他収益			
受取利息	7,830	7,830	
経常収益計			5,163,526
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
旅費交通費	1,295,243		
外注費	1,073,671		
売上原価	513,578		
支払手数料	185,570		
会議費	135,794		
その他	123,996		
その他経費計	3,327,852		
事業費計		3,327,852	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
支払手数料	734,127		
広告宣伝費	673,396		
賃借料	440,000		
旅費交通費	323,889		
会議費	253,847		
消耗品費	218,515		
通信運搬費	192,605		
印刷製本費	130,090		
その他	258,036		
その他経費計	3,224,505		
管理費計		3,224,505	
経常費用計			6,552,357
当期経常増減額			△ 1,388,831
III 経常外収益			
1. 講演料等			
講演料等	305,209	305,209	
経常外収益計			305,209
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
当期正味財産増減額			△ 1,083,622
前期繰越正味財産額			7,247,467
次期繰越正味財産額			6,163,845

法人名： 特定非営利活動法人A&I Medico

貸借対照表

2026 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	5,231,442		
未収入金	311,806		
棚卸資産	95,542		
仮払金	0		
流動資産合計		5,638,790	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
3. 繰延資産			
繰延資産	875,892		
繰延資産合計		875,892	
資産合計			6,514,682
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	295,837		
前受金	55,000		
流動負債合計		350,837	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			350,837
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,247,467	
当期正味財産増減額		△ 1,083,622	
正味財産合計			6,163,845
負債及び正味財産合計			6,514,682

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

該当事項はありません。

(2) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理

該当事項はありません。

(3) ボランティアによる役務の提供

該当事項はありません。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

単一事業であるため記載を省略いたします。

3. 施設の提供等の物的サービスの受入れの内訳

該当事項はありません。

4. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

該当事項はありません。

5. 固定資産の増減内訳

該当事項はありません。

6. 借入金の増減内訳

該当事項はありません。

7. 役員及びその近親者との取引の内容

該当事項はありません。

法人名： 特定非営利活動法人AfriMedico

財産目録

2026 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手許現金	0		
銀行普通預金	5,231,442		
未収入金			
Paypal	311,806		
棚卸資産			
商品	95,542		
流動資産合計		5,638,790	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
3. 繰延資産			
繰延資産	875,892		
繰延資産合計		875,892	
資産合計			6,514,682
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
コーポレートカード引落未払金等	295,837		
前受金			
会費前受金	55,000		
流動負債合計		350,837	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			350,837
正味財産			6,163,845

2025 年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人 AfriMedico

1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- ☒ 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
- ☒ 各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

2 役員一覧

	役名	(フリガナ)		前事業年度内 の就任期間	報酬を受けた期間 (該当者のみに記入)
		氏名			
1	理事	アンザイ エリ 安齊 恵理		2025年4月1日 ～ 2026年3月31日	～
2	理事	ツボイ ショウタ 坪井 祥太		2025年4月1日 ～ 2025年5月18日	～
3	理事	フジイ ダイキ 藤井 大暉		2025年4月1日 ～ 2026年3月31日	～
4	理事	ヨシミツ エリ 吉光 恵理		2025年5月18日 ～ 2026年3月31日	～
5	監事	カマチ マサヒデ 蒲地 正英		2025年4月1日 ～ 2026年3月31日	～
6				～	～
7				～	～
8				～	～
9				～	～
10				～	～

社員名簿（社員のうち10人以上の者の名簿）

特定非営利活動法人 AfriMedico

	氏 名	
1	安齊 恵理	
2	大洞 貴信	
3	藤井 大暉	
4	蒲地 正英	
5	吉光 恵理	
6	青山 保奈美	
7	前田 麻貴	
8	小倉 由紀江	
9	田中 颯瑛	
10	坪井 祥太	
11		
12		